

選定に必要な資料

(種目名 歴史的分野)

No. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 教材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 島根県の実態や課題への適合等	(5) 発展的学習, 自学自習についての工夫		(6) その他
A 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判で資料が大きく見やすい。資料と本文を結びつけるために本文中に資料番号を付す工夫がされている。(p32-33等) ・ 地理, 公民との関連がわかりやすいようにマークで示されている(p38) ・ 各章ごとに色分けがされていて, 時代が意識されるよう工夫されている。(p2-3等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間の学習内容が見開き2ページに収められて, 学習内容の見通し, 学習活動の展開学習内容の振り返りの流れが構造化されるよう工夫されている。(p22-23等) ・ 学習内容の時期が分かるよう, 見開きごとに「時代のスケール」が設けられている。(p22等) ・ 各章のはじめは, 前章のまとめとのつながりのあるページ構成となっており, 歴史の流れを確認することができるように工夫されている。(p62-63等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフに凡例を使わず, グラフ内に直接記入することで色覚特性がある生徒に配慮されている。(p256) ・ 各時代の導入ページに, 小学校の振り返りをするすることで, 時代のイメージができるよう工夫されている。(p98-99等) ・ 歴史上の人物をキャラクター化したイラストを, 全体を通して用いて, 興味・関心を高めるよう工夫されている。(p6-7等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹島について, 「国境と領土の確定」の年表中に日本領への編入の閣議決定の年が示されている。「歴史にアクセス」において, 竹島の歴史, 編入の経緯国の外交努力, 島根県の取組が記述されている。(p169, 251-253) ・ 「現代に受けつがれる神話」において, 出雲神話について紹介されている。(p59) ・ 「応仁の乱と戦国大名」において, 石見銀山が紹介されている。(p85) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見開きごとに設けられている「確認」と章末の「この時代の特色をとらえよう」に取り組むことで言語活動や協働的な学びを展開できる工夫されている。(p61等) ・ 「歴史スキルアップ」を設けることで, 歴史学習の基礎的な技能が定着できるよう工夫されている。(p39) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を実物大で掲載したり, サイズを付したりすることで具体的なイメージを持って学習できるよう工夫されている。(p121) ・ コラム「歴史にアクセス」「深めよう」などでは同和問題に関する題材が取り上げられている。(p87, 133等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考力・判断力・表現力を段階的に高めるよう工夫されており, 言語活動や協働的な学習を意識した構成となっている。 ・ 年表を様々な手法で活用しており, 時間の流れを意識して学習できる点において優れている。
G 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判で重要語句が大きめにあらわされるなどの工夫があるが, 資料や地図が小さくインパクトに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見開きごとに「学習課題」が提示してあり見通しをもって学習に取り組めるよう配慮されている。(p122) ・ 「時代の変化に注目しよう」は, 次の章の「とびら」と合わせ, 学習の導入として扱うことができるよう工夫されている。(p86-87) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「歴史にアプローチ」では年代, 時刻, 方角の表し方や単位, 絵画資料の見方などが紹介されており, 学習を楽しく, 深く進めることができるよう工夫されている。(p11-14) ・ 「歴史のなかの言葉」では, 歴史上の人物の名言を通してそれぞれの時代の特色を感じることができるよう工夫されている。(巻頭1, 2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹島について, 「智識を世界に求めて」において島根県への編入を, 「隣国と向き合うために」において韓国による不法な占拠, 国際司法裁判所への付託について記述されている。(p165, 257) ・ 石見銀山の坑道跡, 出雲大社, 神楽の様子松江藩の1年間の支出が資料として取り扱われている。(p48, 49, 96, 107) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見開き2ページごとに「ふりかえる」が設けてあり, 基礎・基本の習得, 思考力・表現力の育成ができるよう工夫されている。(p17) ・ 「学習のまとめと表現のページ」で知識の定着と考察, 表現ができる課題が設定されている。(p84-85) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国宝や重要文化財, 世界遺産に指定されている文化財などについて, わかりやすいマークが付されている。 ・ コラムで「けがれ」について説明がある等, 同和問題が丁寧に取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1章において, 小学校時代に学習した歴史上の人物を振り返ることで, 小学校社会科とのスムーズな接続ができるよう工夫されている。 ・ まとめと導入の工夫として, 学習した時代の振り返りと次の時代の予想ができるようにし, 歴史の流れをつかめるよう工夫されている。

選定に必要な資料

(種目名 歴史的分野)

No. 2

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 教材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 島根県の実態や課題への適合等	(5) 発展的学習, 自学自習についての工夫		(6) その他
I 清水書院	<ul style="list-style-type: none"> 本文の読みにくい漢字にはふりがながついている。文章は簡潔で量は少な目ではあるが内容は充実している。 図と本文の配置が統一されていて見やすいが写真の印刷が若干暗い。 難しい語句にはそれぞれのページに側注がついている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各章の始めのページにその時代を代表する歴史資料があり, この章で学ぶ課題が簡潔に取り上げられており, 導入に役立つ工夫がされている。また章の最後には年表とその時代の特色をまとめるための課題が設定されている。(p56, 57等) 見開きページの最初に学習課題が示され, 最後に「まとめてみよう」が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料には「国宝」や「世界遺産」のマークがついている。 巻頭で小学校の学習の復習ができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「神話と伝承」という見開き2ページの発展的学習のページで出雲神話や神楽等が紹介されている。(p44, 45) 室町時代の「アジアの交易」で石見銀山の銀の役割が説明されている。(p94) 江戸時代の「藩の支出内訳」のグラフは松江藩のものが使われている。(p109) 竹島については明治時代の「領土の確定」で本文と側注に取り上げられている。(p178) 	<ul style="list-style-type: none"> 人物や学習内容を深めるためのコラムが随所にある。(p24, 85等) 発展的な内容の「もっと知りたい歴史」(p8等), 資料の読み取りや調べ方などを紹介する「歴史のとびら」(p12等)があり, 興味をもって学習を深めることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> アジア史が詳しく取り上げられている。特に在日朝鮮人の形成など, 近現代史でアジアと日本の関係が詳しく記述されており理解を深める工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラクターやコラムなどが少なく, 情報を読み取りやすい紙面になるよう工夫されている。 本文に盛り込まれている内容は高度で, 発展的な学習にも生きるものとなっている。 東アジアとの関係について詳しく記述しており, 特に近代以降の歴史の認識を深めることにつながっている。
K 帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> A B判で写真や資料が大きく見やすい。 「タイムトラベル」と本文との関連性を紹介するマークが本文中に用いられている。(p22等) わかりにくい用語の解説が随所にある。(p35等) 	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の文化史は2～4ページにわたって掲載されており, 大きな写真が多用され, より深く日本文化を学習できる構成となっている点(4-47等)が優れている。 各部のまとめとして年表, 地図を用いて学習を振り返るとともに協働的な学びができるよう配慮されている。(p49-50) 見開き2ページごとに学習課題が設けられ何を学ぶかが明確になっている。(p14等) 	<ul style="list-style-type: none"> 全章の始めに「タイムトラベル」という想像図があり, 各時代の様子を予想したり, 大まかな様子をつかんだりしやすいように工夫されている。また, 小学校の学習とのつながりも配慮されている。(p20-21等) キャラクターの吹き出しにより資料の視点を明確にし, 学習意欲を高めるよう工夫している。(p52等) 	<ul style="list-style-type: none"> 神話に関するコラムで, 石見神楽が紹介されている。(p41) コラム「地域史」において, 石見銀山について「日本の中で銀の最大の産地」と紹介されている。(p91) 竹島について, 本文に島根県への編入が記述されている。コラムにおいて, 戦後の領土の確定, 韓国の不法な占拠, 国際司法裁判所への付託等について記述されている。(p167, 247) 	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の終わりには振り返るためのコラムがあり, 時代を大観する手立てとして大いに活用できる。(p41等) 「歴史を探ろう」, 「トライアル☆歴史」など, 資料から歴史をひもといてまとめていくページや学んだことを生かして考えることができるページがあり発展的な学習ができるよう工夫されている。(p64, 106等) 	<ul style="list-style-type: none"> 1タイトルごとにページ右端に各時代名が色分けして記載されている。 コラム「羅針盤マーク」は4つの視点から書かれており, 特に人権については13項目が取り上げられ, 授業の中で発展的に取り扱える点が優れている。(p83等) 	<ul style="list-style-type: none"> 各部の「学習をふり返ろう」や「トライアル☆歴史」は資料を根拠に課題解決的な学習に取り組める構成となっている点が優れている。(p154等) タイムトラベルでは政治史だけでなく, 民衆史の視点から見つめることができることともに, それぞれの時代の様子を把握しやすいように工夫されている。(p20-21)

選定に必要な資料

(種目名 歴史的分野)

No.3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 教材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 島根県の実態や課題への適合等	(5) 発展的学習, 自学自習についての工夫	(6) その他	
O 日本 文 教 出 版	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判で写真資料などが大きく見やすい。 ・ グラフや表が多く, 資料の読み取りから深めることができる。 ・ 文字資料の字が大きく, 書体も変えてあり読みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各編(章)の始めには写真や資料が挙げられこれから学ぶ時代の概要, 課題を知ることができる。また「地図で見る世界の動き」では世界とのつながりが意識できる構成になっている。(p14-17等) ・ 見開き2ページには「学習課題」「学習の確認と活用」があり, 何を学ぶか明確にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左ページ下に小学校での学習, 地理・公民との関連が紹介しており, 学習を広げる工夫となっている。(p20等) ・ 「図番特集」では写真や資料を多用し, その当時の人々の生活をより理解する内容となっている。 ・ 見開きページのポイントとなる言葉が示されており, 学習の手立てとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近世史のコラムで石見銀山が取り上げられその歴史的価値について学ぶことのできる内容となっている。(p111) ・ 竹島について, 明治時代の「領土の確定と隣接地域」の国境を示した地図に, 記載がある。(p176) また現代史のコラムで韓国の動きとともに詳しく説明してある。(p265) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各編に多くの発展学習につながるページが用意されている。 ・ 「+α」というコラムが随所にあり, 学習を深める手立てになっている。(p33等) 「スキルアップ」では資料の見方等の学び方の力をつける内容となっている。 ・ 各編(章)の最後には年表と地図を用いたまとめと, 協働的な学習を行いその時代の特色をつかむ課題が設定してある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末の「歴史の基礎資料」は資料集, 用語集として活用できる。 ・ 「洗染一揆」を「新しい世の中をめぐらした人々」という読み物の中で高杉晋作や坂本竜馬と並んで取り上げ, 歴史的意義を重視した内容になっている。(p164, 165) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各編(章)を見通した課題がもたれており, まとめのページでは着目点を示してその時代の特色をつかむ学習が設定されている。 ・ 言語活動, グループ学習がしやすいように配慮された構成となっている。
Q 自 由 社	<ul style="list-style-type: none"> ・ コラム(「もっと知りたい」「外の目から見た日本」「人物クローズアップ」)が豊富である一方, 本文以外の内容を厳選し, 分量が増えすぎないよう工夫されている。(p28, 29等) ・ 難解な歴史用語が多く使われているが, 側注でわかりやすく説明されている。 ・ 古代と近代以降では人物名, 事件名等の歴史用語を多く用いて詳しく述べられている。(p41) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見開き2ページを1単元とし, 通し番号が91までつけられているため, 見通しを持って学習を進めることができる。 ・ 「歴史豆辞典」ではその章で学んだ歴史用語を100字で解説しており, 学習内容についてポイントを押さえて確認できるよう工夫されている。(p80等) ・ 日本の伝統や文化について多くのコラムが掲載されている。(p28-29等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「年号→西暦早見表」のページが設けられており, 年号への関心を深めるよう工夫されている。(裏表紙裏) ・ 学習の導入では「日本歴史の舞台」として我が国を「森の国」, 「水田の国」, 「町工場の国」の3点で整理するとともに, 歴史学習の意義について考えさせている。(p2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「21世紀の日本の進路」において「竹島は日本固有の領土」であり, 韓国が「不当な占拠をつづけている」と記述され, 側注に編入の経緯が記述されている。(p272-273) ・ コラム「もっと知りたい」において, 神話について学習を深める「国譲り神話と古代人」というテーマで出雲大社について詳しく説明されている。(p46-47) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入に歴史のとらえ方を学ぶ章が設けてあり, 年代の表し方, 調べ学習の方法, 人物を通しての歴史の見方等自ら学ぶための手立てが紹介されている。(p7-24) ・ 見開き2ページごとに「まとめにチャレンジ」という課題が設けられ, 学習した内容について要点をまとめる課題が, 設定されている。 ・ 各章の最後には, まとめが設けてあり, 言語活動が行えるよう工夫されている。(p107等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の天皇陛下や昭和天皇など, 皇室に関する方の記述が随所で紹介されている。(p245, 266, 267, 276等) ・ 神話と大和朝廷の始まりを関連づけて記述している他, コラムにも神話を取り上げている。(p44-47) ・ 同和問題学習については, 「けがれ概念」等の記事の追加が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代と近現代に重点を置いており, 日本古来の文化の独自性と, 近代以降, 独立が維持されたことについて考えられるよう工夫されている。 ・ 日本の伝統や文化を掘り下げて学習できる構成になっている。

選定に必要な資料

(種目名 歴史的分野)

No.4

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 教材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 島根県の実態や課題への適合等	(5) 発展的学習, 自学自習についての工夫		(6) その他
R 育 鵬 社	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判で, 図表や写真等が大きく, 見やすい。ふりがなが多くふられており, 生徒のさまざまな特性に配慮されている。 ・ 見開き 2 ページ 1 授業時間として, 85タイトルで構成されており, 通し番号がつけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見開きごとに設けられている「学習のまとめ」に取り組むことで基礎的な力が身に付くよう工夫されている。 ・ 歴史を築いた人物の役割が人間的な魅力と共に紹介されている。(p219) ・ 各章の導入ページでは各時代を象徴する船を取り上げることで, 海洋国家日本の歩みが外国との関わりの中で紹介されている。(p205) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の内容に関わる事項を多角的な視点から捉えることができるよう「歴史ビュー」が設けられている。(p235) ・ 各章の導入4ページにわたって, イラストや資料を用いて, その時代への関心を深めようとしている。(p14-15等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「歴史ビュー」において, 石見銀山について東アジアの交易でも信用の高い通貨であったことが紹介されている。(p87) ・ 「歴史ビュー」において, 竹島について17世紀半ばに日本の領有権が確立されていたこと, 島根県編入の経緯韓国による不法占拠について, 記述されている。また, 「日本の現状とこれから」の本文で, 日本の立場や国益を守ろうとする姿勢の大切さが述べられている。(p173, 273) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各章の「学習のまとめ」や巻末の「歴史学習のまとめ」では学習した内容を活用して, その時代の歴史や日本の歴史を大観し, 表現する活動を通して, 思考力・判断力・表現力が身に付くよう工夫されている。(p62-63等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人の宗教観道徳観について取り上げられており自然を大切にする心, 伝統文化を尊重する態度を養えるよう配慮されている。(p38) ・ 「なでしこ日本史」では女性たちの活躍にも注目しており, その生き方が紹介されている。 ・ 同和問題については, 「けがれの概念」を学習するための資料の追加が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「歴史ズームイン」「歴史の名場面」など多彩なコラムが設けてあり, 歴史学習への関心・意欲・態度を深めるよう, 工夫されている。 ・ また人物を多く取り上げ, 人物を通じた時代の特徴が捉えられるよう, 工夫されている。 ・ 日本の文化, 伝統についてその良さに気付くよう, 工夫されている。(p49, 77等)
S 学 び 舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判の紙面を利用し, 資料が大きく提示されており見やすい。 ・ 総ページ数が多く, 項目も他の教科書に比べ多い。 ・ 第二次世界大戦, 現代の扱いが他社に比べて大きく, 詳しい内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各章の始めには同じ世界地図を使い, その時代の課題に関連する資料が紹介され, 同時代の世界に目を向ける構成となっている。 ・ 章の最後には振り返りがある。また, 部の最後には, 地図や年表によるまとめ, クイズの作成など発達段階に応じた言語活動が取り上げられている。(p54, 55等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「フォーカス」で導入部分に出来事や人物を取り上げ, その時代の課題を見つけ, 学べるように工夫されている。 ・ 資料を比較したり, 読み解いたりする面白さがあるものが多く取り上げられている。(p18, 70等) ・ 関心を引き付けるタイトルが多く, 工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大航海時代を紹介する地図の中で石見銀が実物大で掲載されている。世界の中で価値があったものという認識ができるよう工夫されている。(p89) また, 「銀と戦国大名」の中で石見銀山がコラムとして挙げられている。 ・ 日露戦争の側注で竹島の領有について取り上げられている。(p199) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随所にコラムがあり, 学習を深める内容になっている。特に当時の民衆の動きを丹念にあげている。 ・ 「歴史を体験する」という6つのコラムがあり, 調べ学習の方法とあわせて, 体験型の学習が紹介されている。(p168等) ・ 表表紙, 裏表紙に世界地図や日本地図(旧国名・遺跡)があり, 地図で確認できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末の年表が充実している。資料や表が随所に織り込まれており, まとめ学習に活用できる。(p294-313) ・ 民衆の側から歴史を見る視点多くあり, 民衆史や人権の発展を考えられるよう, 工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料が多く, 内容も充実している。生徒が課題意識を持って学ぶよう工夫されているが120のタイトルを授業時間内でどのように精選して教えるかが課題である。 ・ 民衆の側から歴史を見る, 世界史の中で日本の歴史を見る姿勢が一貫してある。